

無側枝性を有する 10 月咲き二輪ギク新品種 「千都の風」と「千都の舞」

大中輪ギクは、生産者数の減少により、全国的に生産量が減少傾向にあります。その中において、生け花花材として根強い需要がある二輪ギクは有利販売が期待されますが、摘芽・摘蕾の労力が大きいため、生産が急激に減少してきています。そこで、奈良県農業研究開発センターでは、輪ギクでは一般的となってきた無側枝性を二輪ギクに導入し、栽培の省力化が可能な新品種「千都の風」と「千都の舞」を開発しましたので、その概要を紹介します。

☆ 技術の概要

1. 「千都の風」と「千都の舞」は、いずれも無側枝性二輪ギクに奈良県内在来の二輪ギク品種を2回交配して得られた品種です。いずれも春期の摘心後に不萌芽株は発生せず、切り花収量の1～2%程度で頭花が1輪だけとなる切り花が発生するものの、ほとんどの切り花を二輪仕立てに利用できる適度の無側枝性を持っています。
2. 「千都の風」は、10月上旬に開花する白色品種です。摘蕾節数は上位15節で0～7節、舌状花表面は黄白色、花盤は黄緑で、満開時の頭花径は92mm程度、舌状花数は24枚程度で1列となります(図1)。
3. 「千都の舞」は、10月中旬に開花する黄色品種です。摘蕾節数は上位15節で1～10節、舌状花表面は明黄色、花盤は黄緑で、満開時の頭花径は134mm程度、舌状花数は47枚程度で2～3列となり、内側の花弁がやや短い不整形の頭花となります(図2)。



図1 「千都の風」の草姿と頭花



図2 「千都の舞」の草姿と頭花

☆ 活用面での留意点

1. 西南暖地の二輪ギク生産者に普及が見込まれます。
2. 両品種とも出願公表中は奈良県内のみの仮許諾に限定されますが、品種登録後は奈良県との許諾契約により、奈良県外での営利生産も可能です。
3. 両品種とも6月定植の季咲き作型での利用が望ましく、電照抑制栽培では「千都の風」では高所ロゼット、「千都の舞」では花色に赤みが入る問題が生じることがあります。
4. 「千都の風」は、夏期に葉先枯れ症を生じやすいため、過乾燥などの土壌水分ストレスを回避するよう注意します。また、「千都の舞」は、冬至芽の発生がやや少ないため、親株数を確保しておく必要があります。
5. 詳しいことは、奈良県農業研究開発センター(TEL:0744-22-6201)へ問い合わせください。

(日本政策金融公庫農林水産事業本部 テクニカルアドバイザー 吉岡 宏)